

三つの「は」の字

中村 龍介

毎年、正月の初詣では、神殿に向かって二礼・二拍手してお祈りを捧げる。最後に一拝して下がる。この時、「宜しくおねがいます」と念押しする。

何をお祈りするかと言うと、毎年、前年にあつた悩み事を神様に告げて、その解決をお願いするのだ。私の悩み事は、この二年ほどは三つの「は」の字に集約することができる。

最初の「は」の字は「歯」である。二年前、上を総入れ歯にした。当初は、チタンなどの金属義歯床を使用した高級品を作る計画で、K歯科医に十五万円ほどの前金を支払った。K歯科医は私が以前居住していた南雪谷にあり、十年來の付き合いであった。だから、現在の下丸子に転居してからも毎回、車で通っていた。ところが、二年前の夏、K先生が突然、「うつ血性心不全」とかで入院してしまった。前金を支払っているため、他の先生に鞍替えするわけにもいかず、暫く様子を見ていたが、同年九月末、西銀座法律事務所という弁護士事務所から書状が届き、K医師は復活の見込みなく、自己破産を申し立てた旨の通知とともに、この弁護士事務所が破産管財人になるので、K歯科医に債権がある方は申告してほしいと書かれていた。私はダメ元で、「治療前払金」として十五万円を申告した。

K先生に復活の見込みがないという以上、他の歯科医を探さなければならぬ。ウェブ上で近隣の歯科医を検索、自宅から最も近いH歯科医を選んだ。上部の総入れ歯は最初からの出発となる。予算を訊かれて、K医師の一件を話した。H先生は痛く同情してくれて、

「それなら、保険の範囲でやってみましょう」という。

保険の範囲なら、義歯床は樹脂になる。分厚くて重いらしい。とりあえず樹脂でやって、具合が悪ければまた考えればいいか。早く、チャンと噛めるようにならないと、**GOL**（生活の質）が低下したままだ。

というわけで、H先生に急いで治療してくれるようお願いした。今度の先生はK先生に較べるとはるかに効率的でやるのが速い。年末には新しい入れ歯が完成した。嵌まり具合も悪くない。一応の咀嚼には問題なさそうだ。が、細かいことを言えば不満もある。口笛が鳴らなくなった。薬を飲むと上顎の奥で薬が止まってしまう。リングゴやトウモロコシの丸かじりは無理で、大きなものを前歯で噛むと、入れ歯全体が外れてしまう。

H先生も私の希望を聞き入れて、色々と調整してくれるが、これで満足というところまでは行かない。残りの最終調整を神様をお願いするわけだ。

第二の「は」は「肺」だ。肺気腫に罹っているのに加えて、三年前の九月、

肺がんの手術をして左肺を半分近く切除した。その所為で肺活量が低下して少し歩くと息が切れる。階段を登るのも、二十段もあれば途中で休まないと上まで登れない。銀座四丁目のように古い地下鉄の駅には、殆どエレベーターやエスカレーターの設備がないため、地上まで上がるのに大変な労力を使う。そのことが、私の行動半径をかなり縮めている。今年の正月も、早期の回復を神様をお願いした。

最後の「は」の字は「阪神タイガース」だ。神戸生まれで神戸育ちの私は、物心ついたときからトラキチだった。タイガースファンだった父に連れられて、週末には甲子園球場に通っていた記憶がある。当時、小学三年生だった。タイガースのクリーン・アップは「別当、藤村、土井垣」だった。七十年も前のことだが、今でも一番から八番の打順を覚えている。

そのタイガースだが、十四年前にリーグ制覇して以来優勝から遠ざかっている。今年こそ優勝を祈願したが、今ひとつ芳しくない。

シーズン開始早々の四月三日、友だちと東京ドームで巨人・阪神戦を観た。阪神は巨人を上回るヒットを打ちながら、3-6の敗戦。この日だけでなく、四月の対巨人戦は甲子園での三連戦を含めて、六連敗を喫した。巨人戦以外の試合ではかなり健闘し、四月トータルでは十一勝十三敗と二つの負け越したが、順位は最下位だった。

五月に入ると、調子は上向き、次女と一緒に五月十日の甲子園観戦では、中日に7-3で圧勝した。甲子園観戦は五連敗中だっただけに嬉しかった。更に、十四日からの巨人との二連戦では連勝し、つい先日まで最下位だった順位も二位まで上がった。が、上昇気流もここまで。十七、十八日と、甲子園での広島戦に連敗。また、機首を下に向けて下降が始まった。

三つの「は」の字の中では、どうやら阪神タイガースの神頼みが最も難しくそう。

【二〇一九年五月記 原稿用紙約五枚】

課題「悩みのたね」

